

総 合 評 価 書	
事業名：岡山桃太郎空港機能強化事業	担当部局：県民生活部航空企画推進課
1 事業実施の必要性について - 岡山桃太郎空港は、開港から38年が経過し、旅客ターミナルビルについて、利用者の増加に伴い利便性・快適性の向上や老朽化への対応、維持管理費の増加などが課題となっており、旅客の安全性の確保や設備・施設の更新など、早急に対応する必要がある。 - 現状においても機能の制約が見られることから、旺盛なインバウンド需要を取り込めるよう、国際線同時2便対応などの機能強化を図るとともに地理的ポテンシャルを活かした観光施策と連携し、戦略的な路線誘致に取り組む必要がある。 2 事業効果について - 老朽化対策、機材配置の最適化等により、施設利用者の安全性の確保や利便性・快適性の向上が図られるとともに、同時2便に対応できる国際線施設の強化を行うことで、将来のインバウンド需要の増加に対応することができる。 3 施設整備の内容について - エスカレーターの新設等により移動の円滑化のための動線を確保し、旅客ターミナルビルの老朽化対策や機材配置の最適化等を行うことで、施設利用者の利便性・快適性の向上を図るとともに、将来のインバウンド需要の増加に対応するための国際線施設の強化として、ビルの増築等を行う。 - 基本計画は機能強化に必要な最小限の規模を示しており、利便性・快適性が向上できる余地についても検討し、コストとの均衡を図りながら、適切な機能強化が図られるよう検討を進める。 4 財政負担額について - 整備事業費及び管理運営費については事業内容に鑑みれば概ね妥当な水準と考えるが、必要な施設・設備等は着実に整備しつつ、効果の検証を継続し、可能な限りのコストの縮減に努める。 5 事業手法等について - 地方管理空港ではPFIを導入した事例はなく、他空港の事例から現時点でコンセッション方式の導入にメリットがあるとまでは判断できないことなどから、PFIやコンセッションの手法によらず、県が事業主体となって実施する。一方で、他空港で導入されている民間の整備手法を採用することでコスト削減を図ることに加え、民間事業者の持つアイデアを積極的に活用することでサービスの向上を図るため、民間活力の導入を継続的に検討する。 6 その他 - 県民から寄せられたご意見については、別紙のとおりであった。	
＜総合評価＞ 事業評価委員会の意見や議会での議論、県民からの意見を踏まえ、総合的に検討した結果、次の方針により事業を進めることとする。 - 令和8、9年度に基本・実施設計、10年度に工事に着手し、14年度の竣工を目指す。 - 事業費及び管理運営費の精査を進めるとともに、必要な機能強化となるよう民間活力の導入についても、さらなる検討を進める。	